

避難訓練の事例集

◆掲載している自主防災組織の概要

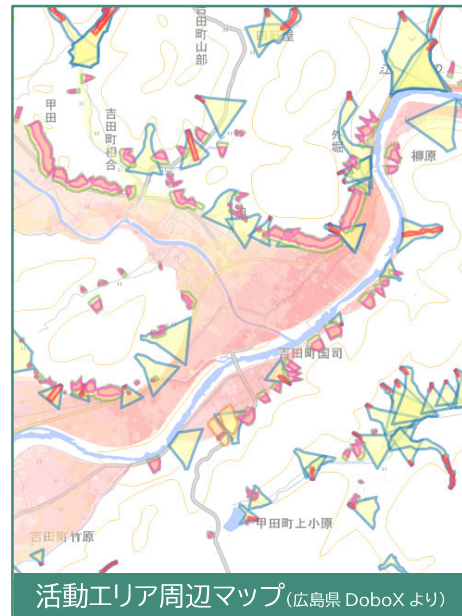


No.	市町名称	組織名称	世帯数	掲載ページ
1	安芸高田市	高樋地区自主防災会	約 70 世帯	P.27
	主な実施項目：防災セミナー・避難所見学（12 人参加）			
2	安芸高田市	四丁目自主防災会	約 50 世帯	P.29
	主な実施項目：避難訓練・避難経路確認・避難所見学（38 人参加）			
3	世羅町	大田町自主防災会	約 148 世帯	P.31
	主な実施項目：情報伝達訓練・避難訓練・防災講演会（20 人参加）			
4	東広島市	you 愛 sun こうち	約 805 世帯	P.33
	主な実施項目：避難訓練・水防講習・排水ポンプ実演説明（90 人参加）			
5	安芸高田市	深瀬自主防災会	約 75 世帯	P.35
	主な実施項目：情報伝達訓練・避難訓練（59 人参加）			
6	三次市	甲奴町振興協議会連合会	約 972 世帯	P.37
	主な実施項目：避難訓練・防災講話（52 箇所で開催・全体 738 人参加）			
7	安芸高田市	甲田 2 6 区自主防災会	約 39 世帯	P.39
	主な実施項目：要配慮者の避難訓練・避難所見学（23 人参加）			
8	廿日市市	大野二区自主防災会	約 2,350 世帯	P.41
	主な実施項目：避難訓練・体験訓練・炊き出し訓練（78 名参加）			
9	尾道市	中庄町自主防災会	約 1,412 世帯	P.43
	主な実施項目：避難訓練・防災講習会（1,224 人参加）			
10	広島市安佐北区	落合学区自主防災会連合会	約 2,000 世帯	P.45
	主な実施項目：情報伝達訓練・避難訓練・防災フェア（500 人参加）			

事例 1

安芸高田市：高樋地区自主防災会

◆組織の概要



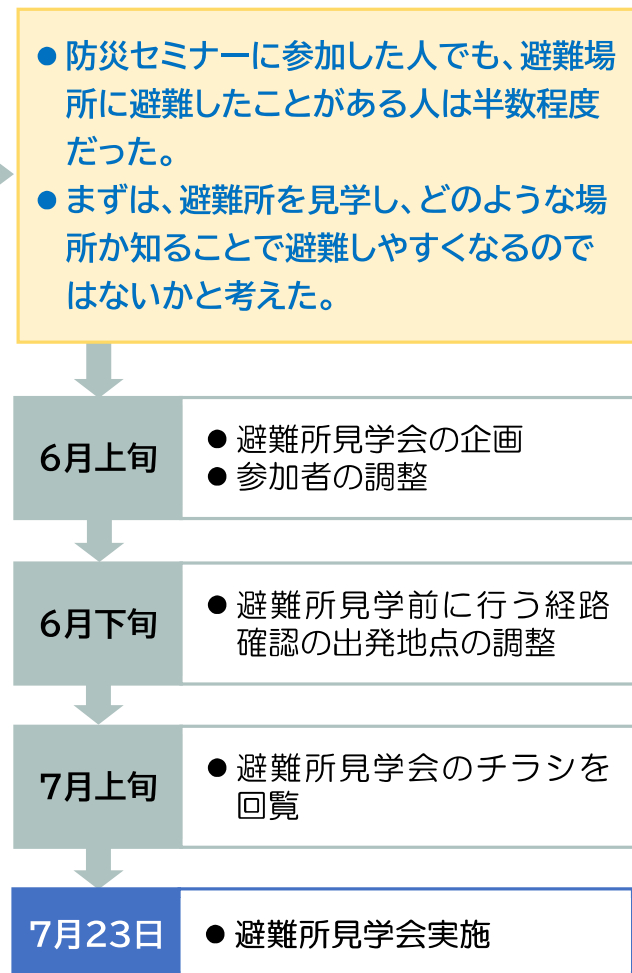
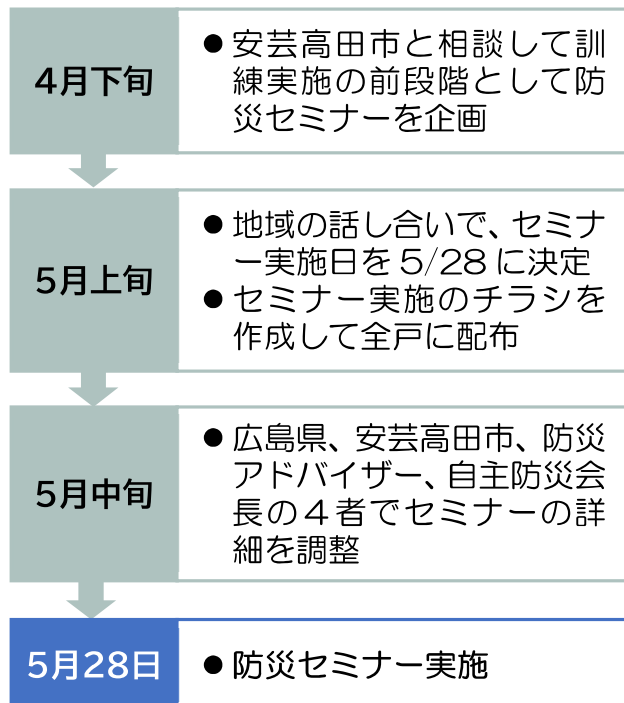
活動エリアの世帯数	約 70 世帯 (120 人程度)
避難訓練の頻度	未経験 (防災セミナーを実施)
防災セミナーのテーマ	災害リスクや避難行動について
防災セミナーの参加者数	12 人

訓練項目

- 防災セミナー (5/28 実施)
 - ⇒地域として防災意識が低く、避難訓練を実施したことがないため、まずは防災セミナーを実施
- 避難所見学会 (7/23 実施)
 - ⇒経路確認、避難所資機材の見学・体験、備蓄食料試食
 - ⇒地域防災タイムラインの作成
 - ⇒他地区や防災アドバイザーとの意見交換

◆活動の流れ

地域で大きな災害が発生していないことから、全体的に防災意識が低く、急に避難訓練を企画しても住民の参加率が低いことが予想された。まずは「防災」に関する話を聞き、意識を高めるためセミナーを実施した。



● 防災セミナーに参加した人でも、避難場所に避難したことがある人は半数程度だった。
● まずは、避難所を見学し、どのような場所か知ることで避難しやすくなるのではないかと考えた。

◆活動当日のスケジュール

5/28 防災セミナー

時間	実施内容
10:00	■ 防災アドバイザーによる講話 ⇒ハザードマップを用いた、災害リスク、避難情報、避難行動の考え方、避難に必要な準備に関する講話。

実施結果など

- しっかりと防災について学ぶことができ、避難訓練に向けた第一歩となった。
- 不参加だった住民にも参加してもらえよう、更なる防災意識の向上を図っていく必要がある。



7/23 避難所見学会

※四丁目自主防災会と合同実施

時間	実施内容
9:30	■ 地区別の集合場所から避難所までの経路確認 ⇒防災アドバイザーと避難所までの経路を歩き、危険箇所や注意箇所を確認。
10:15	■ 避難所資機材の見学・体験と備蓄食の試食 ⇒避難所内の設備や実際に使用できる防災グッズなどを見学・体験。 ⇒備蓄食 (アルファ化米) を試食。
10:45	■ 地域防災タイムラインの作成 ■ 他地区や防災アドバイザーとの意見交換 ⇒訓練参加者、市役所職員、防災アドバイザーとで避難訓練の振り返りを実施。



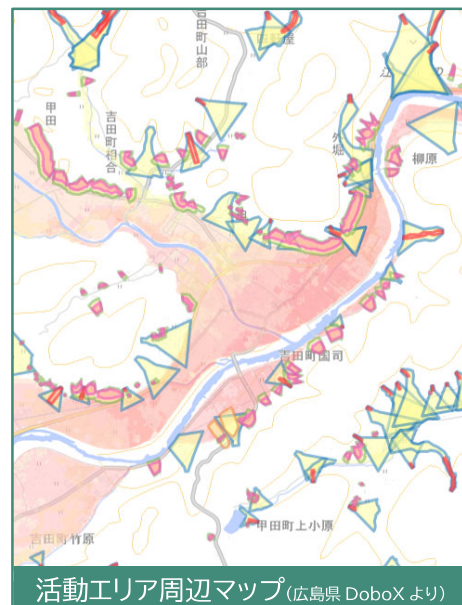
実施結果など

- 避難経路も避難所も、日ごろ意識することがないため、どのような場所か、どのような危険があるのかなどを知るよい機会となった。
- 地域からの参加者を増やすためにも平時の防災活動に取り組んでいく必要がある。

事例2

安芸高田市：四丁目自主防災会

◆組織の概要

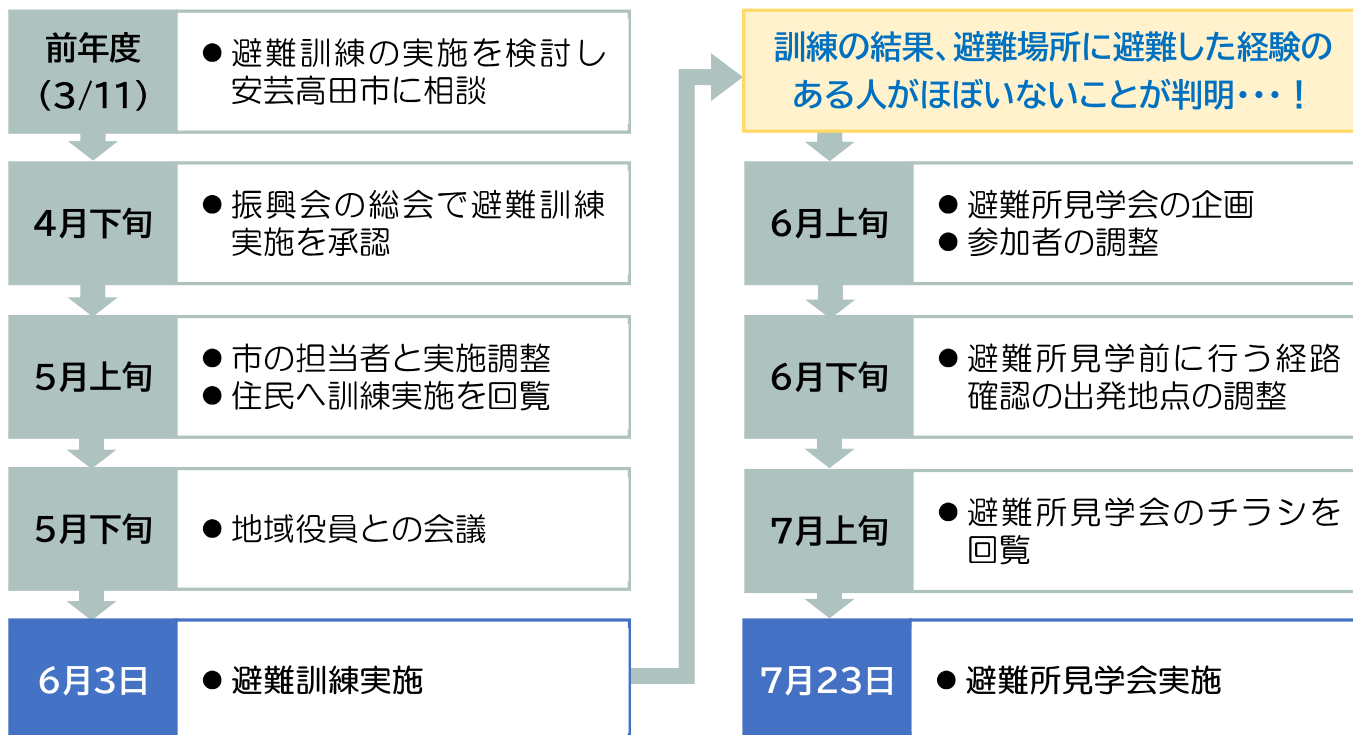


活動エリアの世帯数	約50世帯(110人程度)
避難訓練の頻度	8年ぶりの開催
避難訓練の想定	大雨
避難訓練の参加者数	38人

訓練項目

- 避難訓練(6/3実施)
⇒電話連絡・訪問の声かけによる集合場所までの避難
- 避難所見学会(7/23実施)
⇒各地区の集合場所から避難施設への避難経路確認を兼ねた避難訓練
⇒避難所資機材の見学・体験と備蓄食料の試食
⇒地域防災タイムラインの作成 / ⇒意見交換

◆活動の流れ



実施結果など

- 久々の避難訓練となったが、多くの住民の参加があった。
- 避難の際は、連絡網や戸別訪問での呼びかけが機能することが分かった。
- 集合住宅の入居者等、地域主体では居住者を把握することが難しい住民が一定数おり、その人たちへの関わり方については課題があると考えている。

◆訓練当日のスケジュール

6/3 避難訓練

時間	実施内容
9:00	■ 避難情報の伝達と避難の声かけ ⇒自主防災会長から地域の役員へ避難情報を電話連絡。 ⇒役員を中心に、電話や戸別訪問などで避難を声かけ。
—	■ 地域で決めた集合場所へ避難 ⇒声をかけられた人から助け合って、地域で決めた集合場所まで避難。
9:30	■ 避難訓練の振り返り ⇒訓練参加者、市役所職員、防災アドバイザーとで、訓練をしてみて分かった課題や、今後の防災活動について全員で共有。



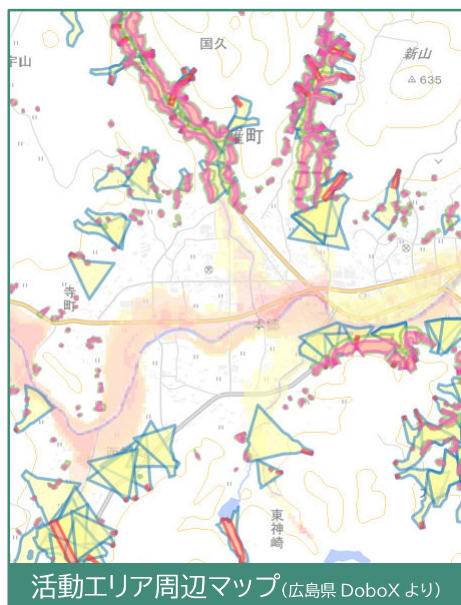
7/23 避難所見学会

※高樋地区自主防災会と合同実施

時間	実施内容
9:30	■ 地区別の集合場所から避難所までの経路確認 ⇒防災アドバイザーと避難所までの経路を歩き、危険箇所や注意箇所を確認。
10:15	■ 避難所資機材の見学・体験と備蓄食の試食 ⇒避難所内の設備や実際に使用できる防災グッズなどを見学・体験。 ⇒備蓄食(アルファ化米)を試食。
10:45	■ 地域防災タイムラインの作成 ■ 他地区や防災アドバイザーとの意見交換 ⇒訓練参加者、市役所職員、防災アドバイザーとで避難訓練の振り返りを実施。



◆組織の概要

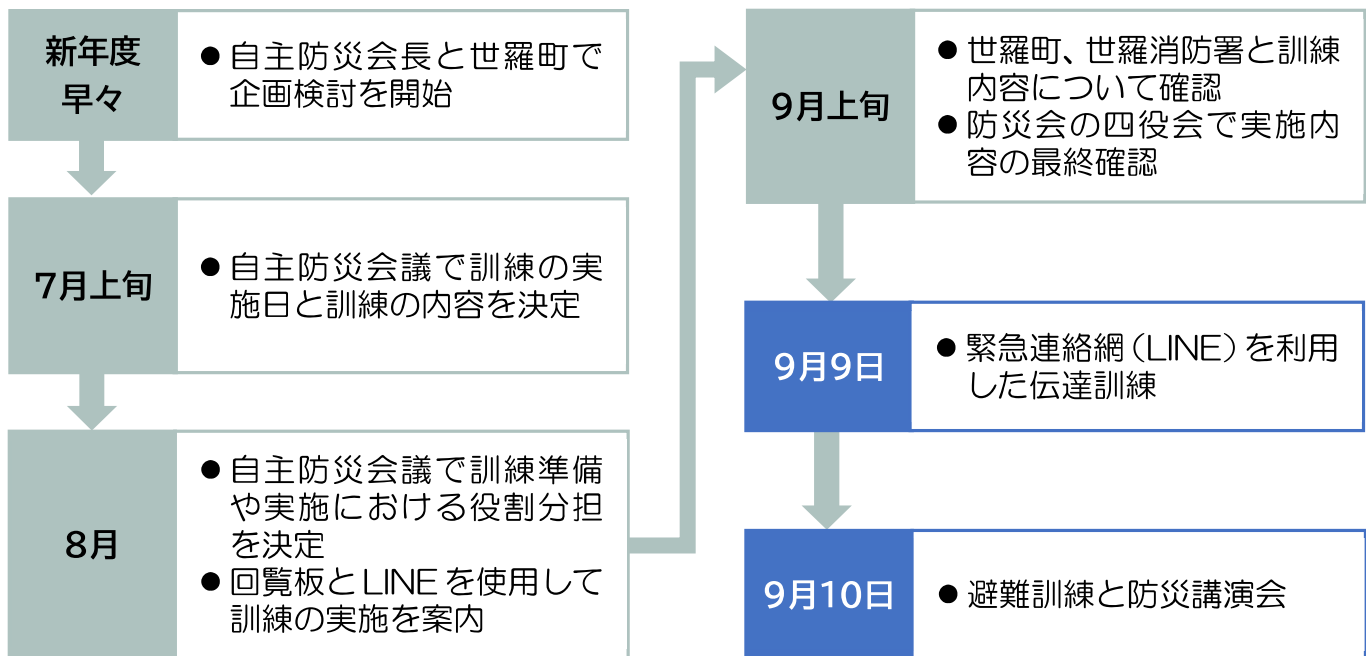


活動エリアの世帯数	約 148 世帯 (300 人程度)
避難訓練の頻度	毎年実施 (年 2 回)
避難訓練の想定	線状降水帯予報による避難指示発令
避難訓練の参加者数	20 人

訓練項目

- 情報伝達訓練 (9/9 実施)
 - ⇒ 緊急連絡網 (LINE) を使用した避難情報の伝達
- 避難訓練・防災講演会 (9/10 実施)
 - ⇒ 各常会の集合場所から避難施設への避難経路確認を兼ねた避難訓練
 - ⇒ 防災研修会 (初期消火・救急救命・避難場所運営・炊き出し体験)
 - ⇒ 地域防災タイムラインの作成

◆活動の流れ



◆訓練当日のスケジュール

9/9 情報伝達訓練

時間	実施内容
17:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緊急連絡網 (LINE) を使用した避難情報の伝達 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 大田町自主防災会事務局より各常会の常会長・防災委員に、避難確認などの連絡をLINEで発信。 ⇒ 常会ごとに常会長・防災委員より各戸へ、避難確認などの連絡をLINE (またはメール、電話) 発信し、避難の意向を確認。 ⇒ 常会ごとに常会長・防災委員より各戸の避難の意向や質問などを集約し、大田町自主防災会事務局にLINE (またはメールで) 報告。

9/10 避難訓練+防災講演会

時間	実施内容
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各常会の集合場所に集合 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 各集合場所から避難場所 (会場) まで経路を確認しながら避難。
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消防署指導による訓練 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 水消火器を使用した初期消火訓練。 ⇒ AED を使った救急救命講習。
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域防災タイムラインの作成 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 災害リスク等に関する講演と、タイムラインの活用について。
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ■ 避難場所運営訓練 (設備・備蓄品等の確認) <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 簡易トイレ・寝袋などの紹介と使い方体験。
11:45	<ul style="list-style-type: none"> ■ 炊き出し訓練 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 避難場所で配布されるレトルトカレーとアルファ化米の試食。
12:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 評価・講評とアンケート調査

実施結果など

- 定期的実施する訓練が、近隣住民同士が話すきっかけとなるが、参加者数がまだ少ないことから、増やすための工夫が必要と考えている。
- 訓練のアンケート結果では、「改めて防災意識を高める必要性を感じた」、「訓練は継続して実施していくべき」、「AED 研修が勉強になった」など前向きな意見が寄せられた。



事例4

東広島市：you 愛 sun こうち

◆組織の概要



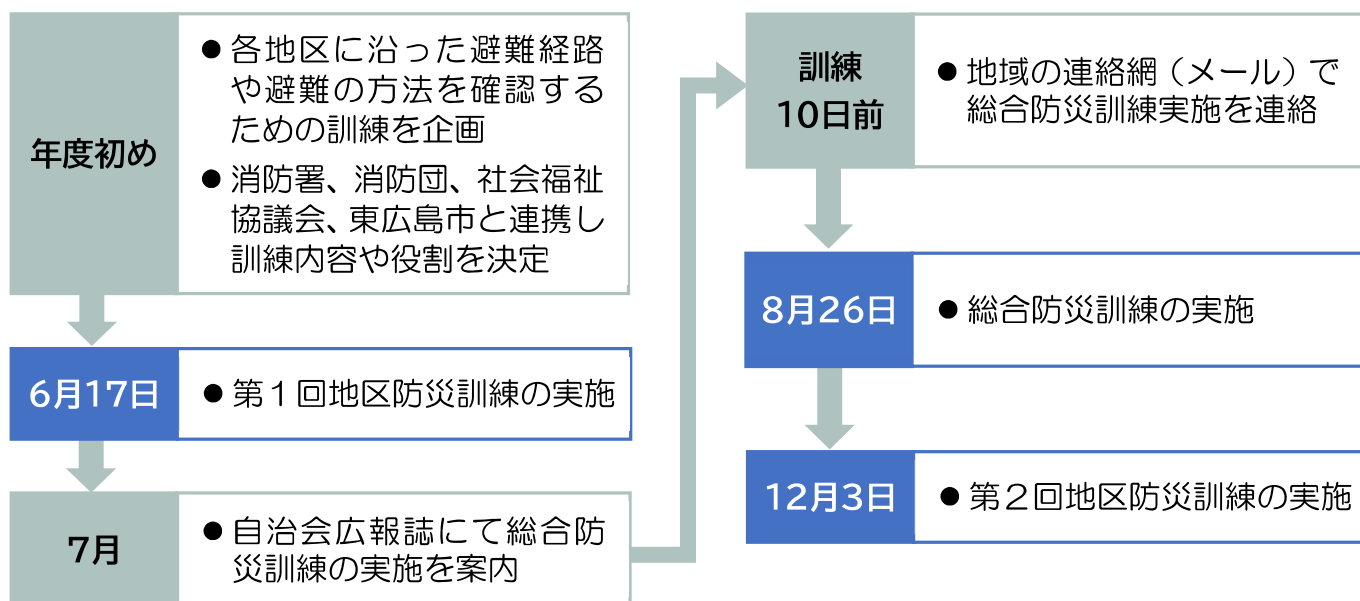
活動エリアの世帯数	約 805 世帯 (1,512 人程度)
避難訓練の頻度	毎年実施 (年 2 回)
避難訓練の想定	土砂災害・浸水・地震・火災
避難訓練の参加者数	90 人

訓練項目

- 総合防災訓練
 - ⇒各地区の集合場所から会場までの避難訓練
 - ⇒消防署による水防講習
 - ⇒地域防災タイムラインの作成
 - ⇒体験訓練 (大型排水ポンプの実演説明)

◆活動の流れ

- 自主防災組織を結成した時に、年間行事として地区単位で実施する防災訓練の実施日を6月第1土曜日と12月第1日曜日で固定している。
- 今年度はさらに追加して8月に地区全体が集まる「総合防災訓練」も実施した。



実施結果など

- 地域住民の防災意識がかなり向上した。
- 自主防災組織の活動範囲が複数の地区に分かれており、地区によって災害リスクが異なることから、各地区に合った訓練が必要と考えている。

◆訓練当日のスケジュール (8/26 実施)

時間	実施内容
—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 避難訓練 (地区別) ⇒防災訓練を行う会場を避難場所とし、各地区の集合場所から避難を開始。 ⇒防災訓練の開始時間までに避難。
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 開会挨拶 ⇒自主防災会長による挨拶とオリエンテーション。
9:10	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消防署による水防講習 ⇒水害の怖さや被害と応急対応としての土嚢の有効性、避難情報に関する講話。
10:05	<ul style="list-style-type: none"> ■ 広島県による地域防災タイムラインの作成 ⇒地域の災害リスク、避難の声かけ、タイムラインの作り方に関する講話。
休憩⇒会場の外 (駐車場) に移動	
10:45	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体験型訓練 ⇒市役所、消防団による大型排水ポンプ操作方法の実演説明。
11:10	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訓練講評 ⇒市役所による講評と自治会長挨拶。



事例5 安芸高田市：深瀬自主防災会

◆組織の概要

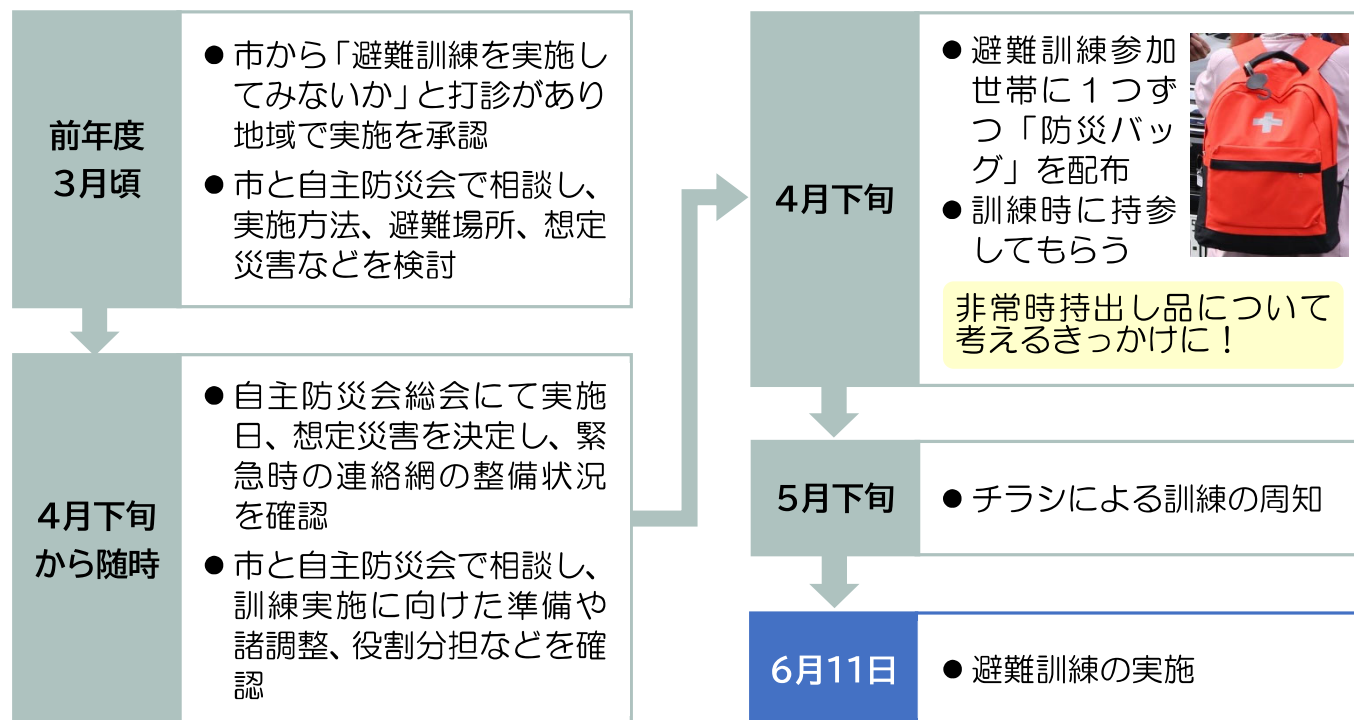


活動エリアの世帯数	約 75 世帯 (135 人程度)
避難訓練の頻度	初開催
避難訓練の想定	土砂災害、河川氾濫、線状降水帯の発生
避難訓練の参加者数	59 人

訓練項目

- 避難訓練
 - ⇒ 連絡網を利用した避難情報の伝達
 - ⇒ 訓練の振り返り
 - ⇒ 地域防災タイムラインの作成

◆活動の流れ



実施結果など

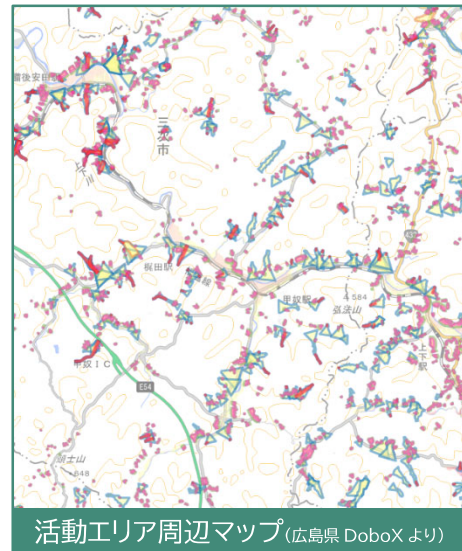
- 訓練への参加率が高く、地域住民の防災意識が高いことが確認できた。
- 今回の訓練に合わせて購入した防災リュックを実際に背負って避難してみるなど、実践的な訓練になった。
- 避難の連絡について、固定電話による連絡網であったため連絡に時間がかかった。携帯電話など複数の連絡方法を用意した方がよいと思った。
- 今回の訓練を教訓に引き続き防災対策をしていきたい。

◆訓練当日のスケジュール (6/11 実施)

時間	実施内容
10:00	■ 防災会長からの避難指示連絡 ⇒ 防災会長から、5つの常会の防災長へ避難指示を連絡。 ⇒ 連絡を受けた各常会の防災長は、連絡網や戸別訪問等により地域住民に避難を指示。
11:00	■ 地域住民の避難完了 ■ 訓練の振り返り ⇒ 参加者は避難行動や訓練の振り返りを実施。 ⇒ 各常会の代表者が振り返り結果を発表し地域全体で共有。
11:40	■ 訓練の講評と地域防災タイムラインの説明 ⇒ 自主防災アドバイザーによる訓練の講評と非常時持出し品の説明。 ⇒ 地域防災タイムラインの使い方や作り方に関する説明。
11:55	■ 防災会長による総評



◆組織の概要



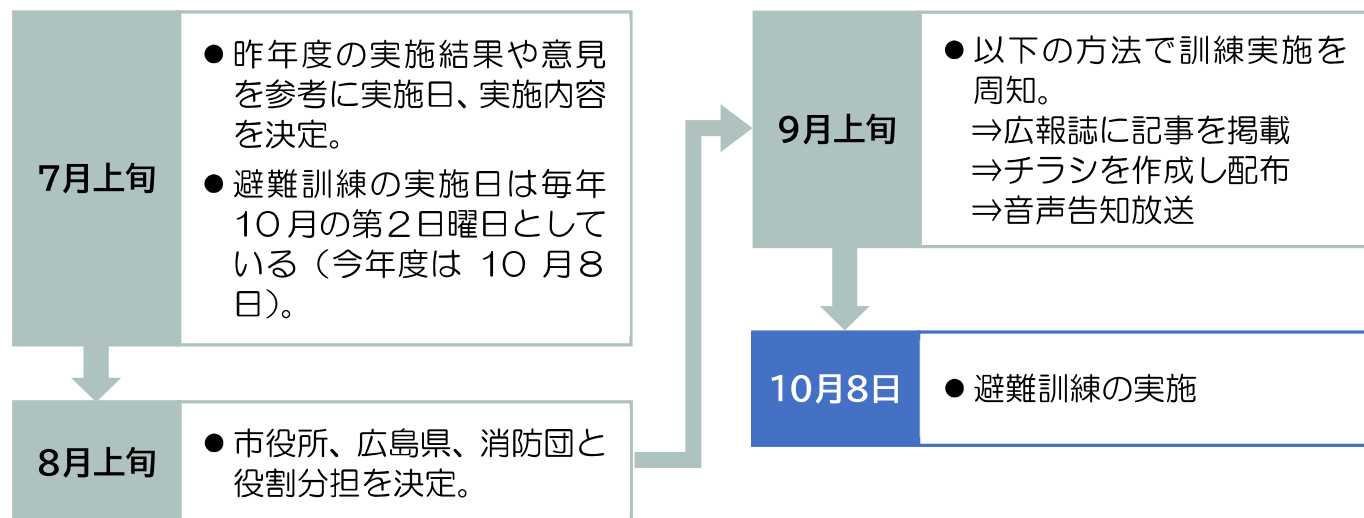
活動エリアの世帯数	約 972 世帯 (2,060 人程度)
避難訓練の頻度	毎年実施
避難訓練の想定	大雨による洪水・土砂災害
避難訓練の参加者数	738 人

訓練項目

- 避難訓練 (甲奴町全体 52 箇所で同時開催)
 - ⇒ 地区ごとに決めている避難場所へ集合
 - ⇒ 防災士・防災アドバイザーによる防災講話と地域防災タイムラインの作成 (町内 5 地区の内、各 2 箇所ずつで実施)

◆活動の流れ

自主防災組織としての活動範囲が広く、避難場所も地区ごとに分散されるため、町内52箇所の避難場所それぞれで訓練を実施している。



実施結果など

- 防災アドバイザーから話を聞ける機会がありよかった。
- 毎年一定の参加者があり、地域の防災意識は持続されている。
- 毎年実施はしているが訓練内容がマンネリ化してきていると感じる。
- 地域の高齢化が進み要配慮者が増えることが懸念されるため、民生委員や関係団体との情報共有をしっかりとっていないといけない。

◆訓練当日のスケジュール (10/8 実施)

時間	実施内容
8:30	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消防団と連携した避難情報の放送 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 音声告知放送で警戒レベル3 (高齢者等避難開始) の避難情報を伝達。 ⇒ 消防団による消防車両を使用した町内の巡回。
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ■ 避難場所の開設と住民の避難開始 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 音声告知放送で警戒レベル4 (避難指示) の避難情報を伝達。 ⇒ 防災連絡員が必要に応じて集会所など地区ごとの避難場所を開設。 ⇒ 地域住民が最寄りの避難場所へ避難開始、完了した地区から避難者を報告。
9:20	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災講話 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 地域の防災士や防災アドバイザーによる、災害リスクや避難行動に関する講話。 ■ 地域防災タイムラインの作成 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 広島県によるタイムラインの解説と、タイムラインの使い方説明。



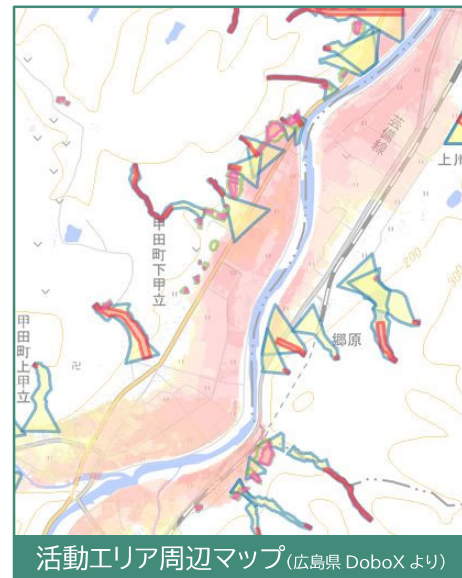
防災講話

地域防災タイムラインの作成

事例7

安芸高田市：甲田26区自主防災会

◆組織の概要



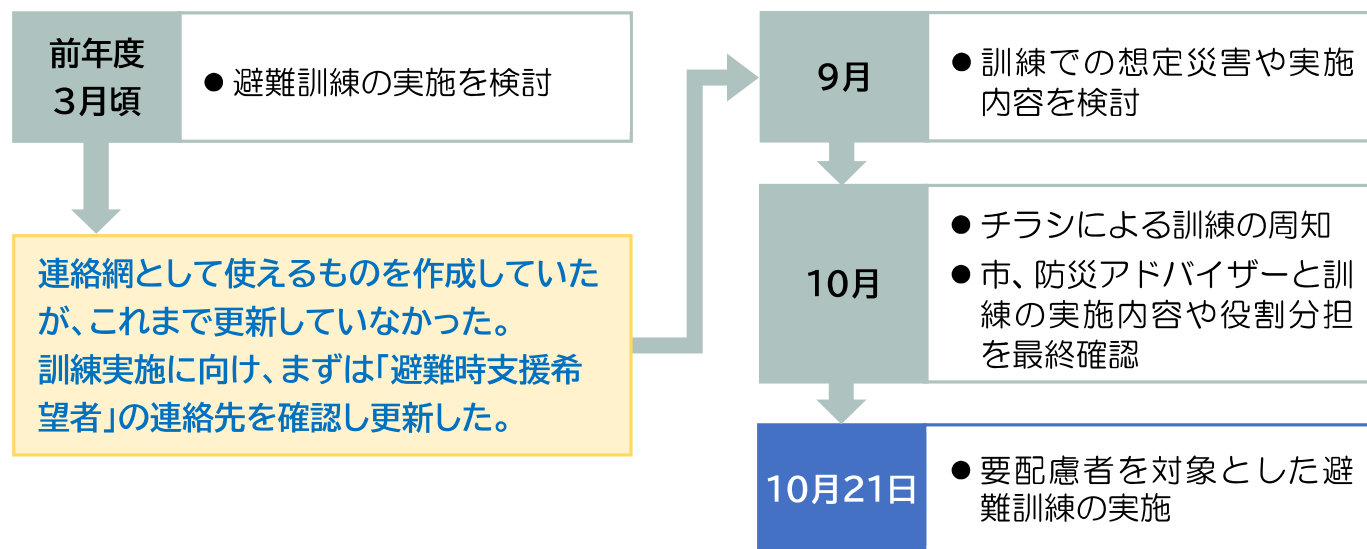
活動エリアの世帯数	約 39 世帯 (90 人程度)
避難訓練の頻度	初開催
避難訓練の想定	大雨
避難訓練の参加者数	23 人

訓練項目

- 要配慮者を対象とした避難訓練
 - ⇒ 避難情報の伝達
 - ⇒ 避難支援希望者の避難訓練
 - ⇒ 避難所の見学
 - ⇒ 地域防災タイムラインの作成

◆活動の流れ

この地域には避難時の支援希望者が一定数いるため、自主防災組織が独自に要配慮者の避難に係る支援サポーターを定めるとともに、民間施設を避難所として利用している。



実施結果など

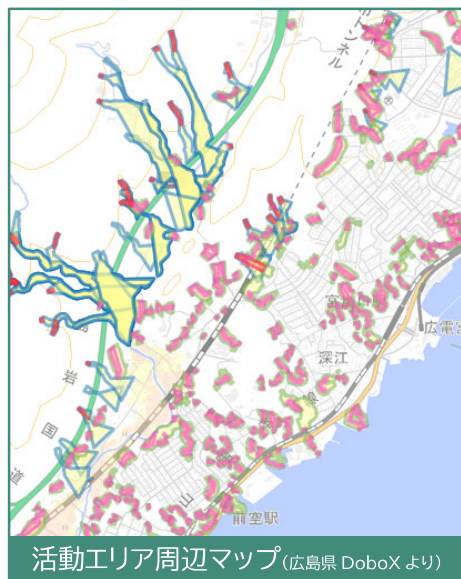
- 初めて避難訓練を実施できた。避難時支援希望の参加者からは「有事の際も安心できる」などの感想をもらった。
- 避難の呼びかけの電話連絡がつながりにくい対象者もあったため、今後は連絡が漏れなく円滑につながるよう改善していきたい。

◆訓練当日のスケジュール (10/21 実施)

時間	実施内容
15:10	<p>■ 避難情報の伝達</p> <p>⇒ 自主防災役員から、避難時の支援希望者と支援サポーターへ避難情報を伝達。 ⇒ サポーターは一旦避難場所に集合し支援の担当・順番をその場で決定。</p>
15:30	<p>■ 避難訓練</p> <p>⇒ 支援サポーターが避難支援希望者を迎えに行き、一緒に避難。 ⇒ 自主防災会長は避難場所に残り情報収集を行う。</p>
16:00	<p>■ 避難所の見学</p> <p>⇒ 避難を完了した人から、避難所として利用する部屋を随時見学。</p>
16:30	<p>■ 訓練講評と地域防災タイムラインの作成</p> <p>⇒ 訓練を見学した自主防災アドバイザーからの講評。 ⇒ 地域防災タイムラインの解説と、使い方に関する説明。</p>



◆組織の概要

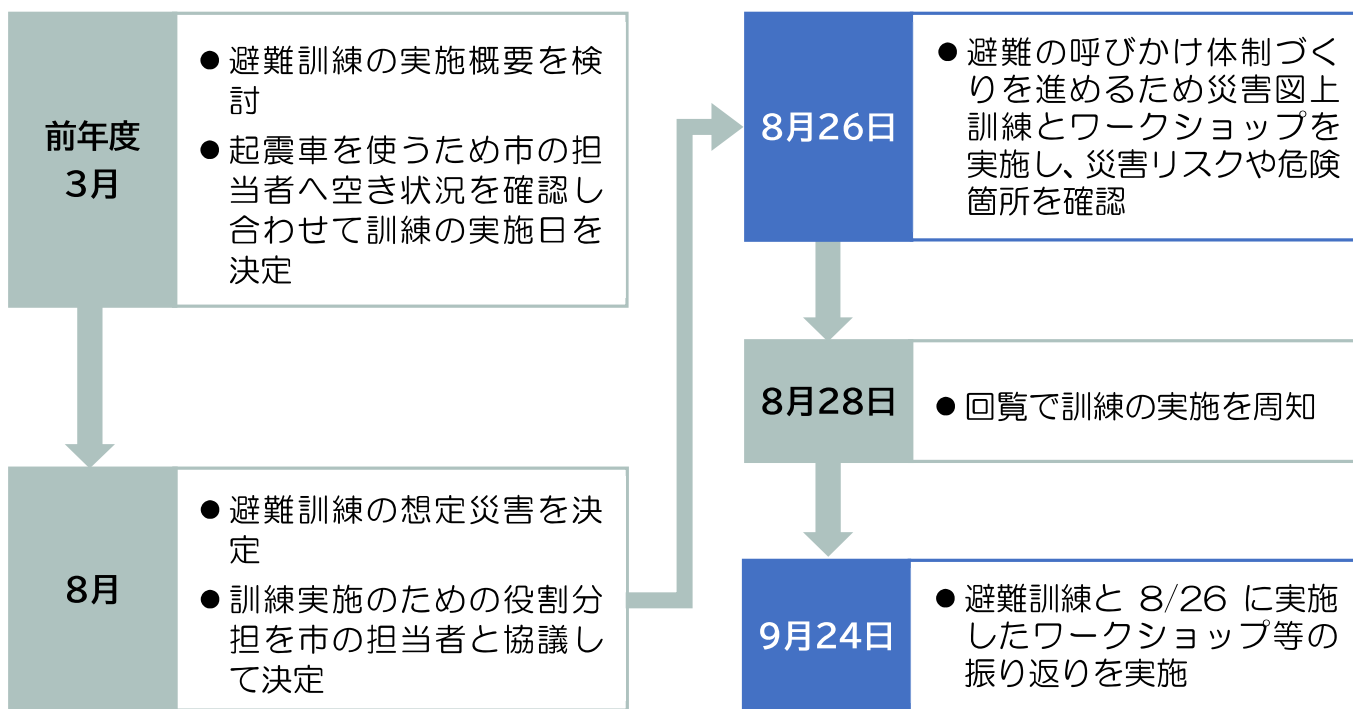


活動エリアの世帯数	約 2,350 世帯 (5,000 人程度)
避難訓練の頻度	毎年実施
避難訓練の想定	大雨
避難訓練の参加者数	78 名

訓練項目

- 避難訓練
 - ⇒防災無線の放送を合図に避難場所へ集合
 - ⇒消防署指導の起震車による地震体験
 - ⇒消防団指導の水消火器を使用した消火訓練
 - ⇒避難場所のかまどベンチを利用した炊き出し訓練

◆活動の流れ



◆訓練当日のスケジュール (9/24 実施)

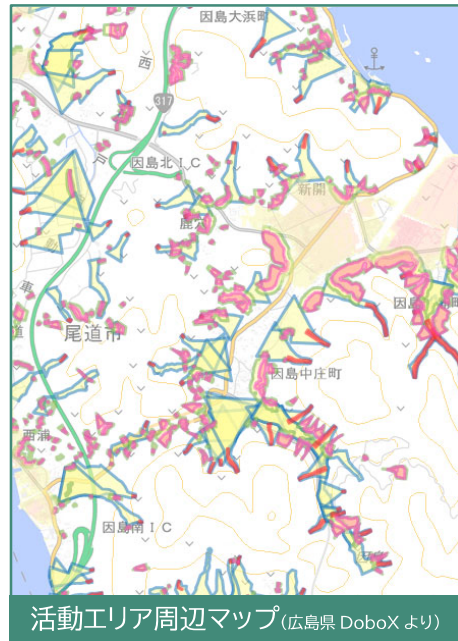
時間	実施内容
9:30	<p>■ 避難訓練</p> <p>⇒防災無線による避難情報の放送を実施(訓練開始合図)。 ⇒避難場所に集まった参加者は避難したことを受付に報告。</p>
10:00	<p>■ 起震車体験・消火器訓練</p> <p>⇒消防署指導の起震車による地震体験。 ⇒消防団指導の水消火器を使用した初期消火訓練。</p> 
11:00	<p>■ 災害図上訓練 (DIG)・ワークショップの振り返り</p> <p>(避難場所の防災備蓄倉庫に関係者のみ集合)</p> <p>⇒避難訓練と平行して、自主防災会委員、民生委員、2区消防団、近隣地区の組長が集まり災害図上訓練 (DIG)・ワークショップの振り返りを実施。 ⇒今年度実施した災害図上訓練 (DIG)・ワークショップで挙げられた呼びかけ項目の意見を集約し、項目内容の振り返りを実施。</p>
11:30	<p>■ 炊き出し訓練</p> <p>⇒避難場所に設置されている“かまどベンチ”を利用して炊き出し訓練を実施。</p>



実施結果など

- ワークショップを重ね、呼びかけ項目を集約して振り返りを行ったことにより、呼びかけ避難について認識を深めることができた。
- 今回の訓練を参考に、避難行動要支援者の参加促進を図りたい。

◆組織の概要

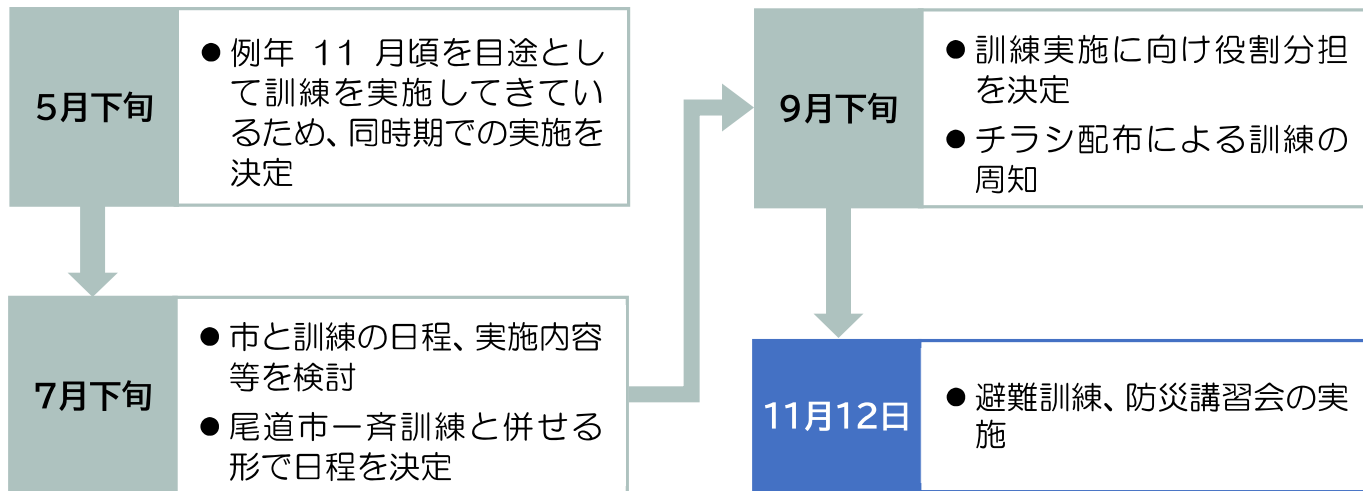


活動エリアの世帯数	約 1,412 世帯 (2,890 人程度)
避難訓練の頻度	毎年実施
避難訓練の想定	南海トラフ巨大地震、津波
避難訓練の参加者数	1,224 人

訓練項目

- 避難訓練
⇒防災ラジオを活用した情報伝達と避難訓練
⇒要配慮者宅への訪問による呼びかけ避難
- 防災講習会
⇒防災講話、VR 体験などによる防災学習
⇒要支援者に対する避難方法のグループワーク
⇒地域防災タイムラインの作成

◆活動の流れ



実施結果など

- 避難訓練では、令和3年に地域で作成した防災マップ（区単位）を活用し避難経路、避難先、災害リスクなどを再確認することができた。
- 防災講習では、地域防災の問題点や災害リスクなどを把握でき、また、地域防災タイムラインを習得することができた。
- 今後は、避難訓練を繰り返し全世帯の参加を目指したい。但し、高齢世帯が多く、要配慮者を連れ出して避難することが困難であるため、改善策を見つけていきたい。

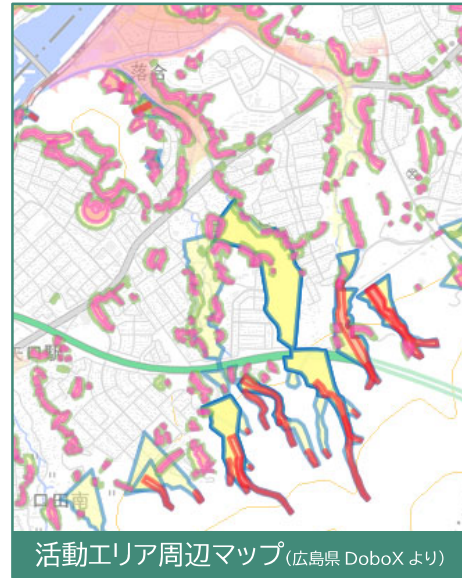
◆訓練当日のスケジュール（11/12 実施）

時間	実施内容
8:30	■ 避難訓練 ※尾道市が貸与している“尾道防災ラジオ”を活用し、尾道市から一斉放送 ⇒尾道防災ラジオを利用し“緊急地震速報（訓練放送）”を放送し、放送から 10 秒後に強い揺れがあることを想定した「身を守る訓練」を各家庭で実施。 ⇒再度、尾道防災ラジオにて“避難情報（津波）”を放送し、3 時間後に津波が到来することを想定し避難を開始。 ⇒避難時は要配慮者宅へ訪問し、避難を呼びかけた上で移動。
9:30	■ 避難者受付と避難完了 ⇒避難場所で避難者の受付を実施。
10:00	■ 防災講習会：防災講話 ⇒駐在所長、消防署長による防犯、防火、防災対策に関する講話。
10:20	■ 防災講習会：VR 体験・グループワーク ⇒市による防災講習（南海トラフ巨大地震・VR 体験）。 ⇒参加者を地区単位に分け、要支援者に対する支援方法などを検討。
11:30	■ 防災講習会：地域防災タイムラインの作成 ⇒広島県によるタイムラインの解説と、地域防災タイムラインの使い方説明。
12:00	■ 総評 ⇒自主防災会長（中庄区長会長）による総評。



事例 10 広島市安佐北区：落合学区自主防災会連合会

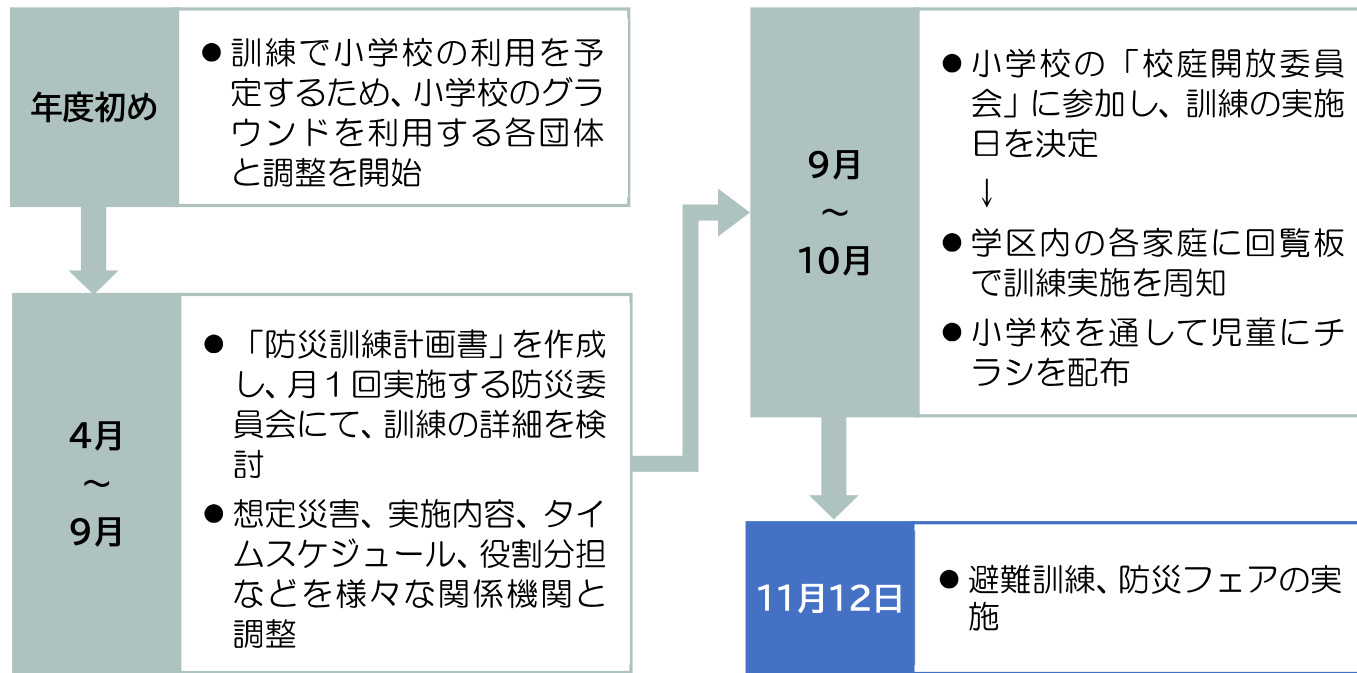
◆組織の概要



活動エリアの世帯数	約 2,000 世帯（5,000 人程度）
避難訓練の頻度	毎年実施
避難訓練の想定	地震
避難訓練の参加者数	500 人

- 訓練項目**
- 避難訓練
 - ⇒メール等を活用した情報伝達・避難訓練
 - ⇒AI センサーやスマートウォッチを活用した避難所開設・受け入れ訓練
 - ⇒地域防災タイムラインの説明や防災活動の発表
 - 防災フェア
 - ⇒関係団体による防災展示・防災体験
 - ⇒地元高校生主催の防災クイズ大会

◆活動の流れ



実施結果など

- 規模の大きい訓練だったが、自主防災組織が中心となり、計画・立案・実行することができた。
- 学区全体として、活動している防災委員のレベル向上と、住民防災意識向上を更に目指していきたい。

◆訓練当日のスケジュール（11/12 実施）

時間	実施内容
8:30	■ 情報伝達・避難訓練 ⇒区から各自主防災会へメールを配信し、防災行政無線で避難情報を伝達。 ⇒各自主防災会で近隣の空き地等へ避難、安否を確認し訓練本部へ報告。
9:00	■ 避難所開設・受付訓練 ⇒AI センサーやスマートウォッチを使用した受付訓練。 ⇒避難所を再現し、自主防災役員が避難所生活で使用するテントなどを説明。 ⇒導入している安否確認システムを活用し、住民の安否を確認。システム未登録の住民へ登録方法を説明。
10:00	■ 防災研修及び活動発表 ⇒地域防災タイムラインの説明。 ⇒小学6年生による防災授業の学習結果や中学生防災士による活動発表。
10:30	■ 防災フェア：オープニング ⇒広島市消防音楽隊による演奏と主催者・来賓の挨拶。 ■ 防災フェア：展示・体験コーナー（終了まで随時） ⇒社会福祉協議会、区役所、消防署などの協力機関による防災グッズの展示や災害疑似体験の実施。 ⇒陸上自衛隊による炊き出し体験（カレー試食）。
11:00	■ 防災フェア：高校生による防災クイズ大会 ⇒地元高校生出題の〇×クイズ大会の実施（2回実施）。

